

ふじぎしんぶん

第155号

2014年
4月号

おひさまのふじぎ

おひさまは ぽかぽか

はるです。

みいこちゃんは、ねんちゆうさんに なりました。きょうは、うさこせんせいと、こうえんにピクニックです。

くさむらに ねっころがったみいこちゃんの からだを、あたたかい ひざしが つつみます。

「うくん、いいきもち。ぽかぽかです。ねえ。まぶしい・・・」

「ほんとに、おひさまの おめぐみは ありがたいですね。」

「あれ？」

「どうしました？」

「おつきみの とき、おにいちゃんとおつきさまを、ずーっとみてました。そのとき、ぽかぽかでは なかったです。おつきさまも あんなに まぶしいのに、どうして ですか？」



「そうですね。ろうそくや、キャンプファイヤーや ストープなど

もえているものは、あかるいし、あたたかいですね。おひさまも、おそらの はるか かなたで、もえて

います。おひさまは じぶんの からだが もえているのです。それで、あたたかさや あかるさがつ

たわってくるのです。けれども、おつきさまは、もえてはいません。

つきが あんなに あかるいのは、おひさまに てらされて、おひさまの ひかりを はねかえしているからなのです。じぶんで

もえて いないから ほとんど あたたかく ならないのですよ。」

「そうなんですか。じゃあ、えんちようせんせいの あたまが ひかっているのは・・・。」

「おつきさまに にてるかね。」えんちようせんせいが わらいました。

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！

ぼかぼか ひなたに なにがある？ あかるいものは どこにある？

ぼかぼか ひなたが すきなものは なにかな？

ねこ？ むし？ はな？ みんなは ひなたが すきかな？

おひさまのように、

じぶんで ひかって

あかるいものは、みつかるかな？

おつきさまのように、

ひかりを はねかえして

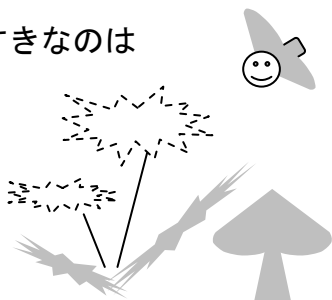
あかるいものは、みつかるかな？



クイズコーナー

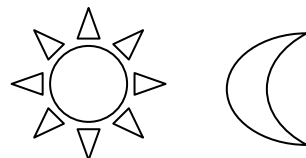
① ひなたが すきなのは
どれ？

1. たんぽぽ
2. きのこ
3. みみず
4. はち
5. ねこ



②

たいようと つきは
ほんとうは
おなじくらいの
おおきさ。
ほんと？うそ？



クリーンな エネルギー

たいようこう はつでん なら

サンサンでんき

うみべの パネルが
どんどん でんきを
つくっています

みんなが みつけた ふしぎ

なんで さくらは おはなが
ちったほうが こいいろに
なるの？

(ちかくの なみきを みていて)

(Mona)

みんなも みつけた
ふしぎ おしえてね

子供にとつてのお日様

本年度はふしぎしんぶんの通年テーマとして、空を見上げると出会うふしぎを取り上げていきたいと思ひます。

お寄せいただいた子供不思議には、気象現象に関するものが多くあり、子供達がいかに繊細に日々の空気を感ず、空を見上げているかを教えてくれます。その中から季節に合わせた選んだ不思議をトップページで取り上げ、この欄で保護者の方向けに解説していきたいと思ひます。

ただし、この解説を子供に教えていただく為ではありません。子供達と向き合う時に、大人としてある程度の知識や視点を持つていた方が、余裕を持って子供に接することができるといふ声にお答えして載せております。

この解説に基づいて、科学的にあつてゐる間違つてゐるといふ評価を子供に与えないでください。どうぞ、子供達なりの不思議への感じ方や解釈を大切にしてください。共感を持って、耳を傾けてください。大人の知識など太刀打ちならぬくらい、目を見張るほどユニークで見事な発想を、子供達が告げてくれることもありますから。

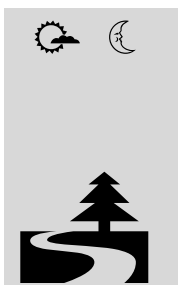
さて、始まりの四月は、地上に生きる私たちの根源をなす太陽について、みいこちゃんと言葉を「今日のお日様は本当に暖かいね」といつたお日様に関するものや、「なんでお月様はまぶしいのに冷たいの」といつた、お月様に関する発言です。

太陽も、月も子供達は大好きですね。太陽が燃えていることは、多くの子供達が幼い頃から知つてゐます。太陽と月が同じくらいの大きさに見えることや、月の形が変わることに気がついている幼児も多いようです。

大人に取つて面白いのは、夕暮れに不気味なほど大きく見える昇り初めの満月や、大きく歪んで見える沈む太陽の経験が、月や太陽の性質のように捉えられていて、大きさ（満ち欠けの形ではなく）が変わるものだと考えている子供もいることです。もし、そういうお子さんがいたら、そんなことはない、単純に否定して終わりにしないでください。むしろ、日常の貴重な観察経験がちゃん蓄積されてゐることに感心したいものです。

大きく見えることは事実。それが、やがて、多くの経験や大人の話の蓄積が合体して、なるほどと思えるきっかけにどこかで出會つて、本当に大きくなつてゐるわけではなく、光の加減で大きく見えているといふことが腑に落ちていくのでしよう。

大人の知識をお話ししてあげるのも大切なことですが、教え込むのが目的ではなく、あくまで、子供が自分で辿り着く考えの助けの一つになるように伝えられたい。常々考えています。



子供が見つけた不思議・ミニ解説

私の家の近くにも桜の並木が500mくらい続いている道があります。直線なので、車で走つていても遙か向こうまで桜のトンネルが続いているようです。Monaちゃんの不思議は私も発見しました。確かに花吹雪が見られるようになってからの方が、桜全体の色が濃く見え、並木の遠い木まで青空の下、鮮やかになった気がしました。ご存知の通り桜の花びらはまさに薄い桜色か、白に近いくらいですが、花萼はむしろえんじ色と言つていいほど濃い色をしています。花吹雪が見られる頃は、半分ほどが薄い花色で、その合間に花萼の色が現れるので全体が濃くなったように感じます。眼前にすると散つた後とははっきりわかるのですが、遠目には桜の色が濃くなったかの印象です。桜は花も花萼も、樹皮まで同じアントシアニンを含んでいます。色素では黒米や黒豆、茄子やブルーベリーの仲間です。

本年度もよろしくお願ひします

桜が早かつた今年、入学式や入園式はなごりの桜の下での登園登校となりました。待ち焦がれていたようにさまざまな花が一気に開いた4月、新たな世界に胸躍らせておられることと思ひます。ご活躍を楽しみにしております。ふしぎ新聞は皆様がお寄せくださるふしぎでできています。今年もたくさんふしぎをみつけて、ぜひお便りをお寄せください。お待ちしております。当新聞はHPより無料にてダウンロード可能です。紙面でお読みになりたい場合は、一年間(11回)の送料手数料1100円を定額小為替か小額切手でお願ひしています(3部まで同封可)。下記の住所まで。URL: science-with-mama.com

輝く太陽

太陽は地上の私たちにとって最大の光源です。電気の光も、稲妻も、火山の噴火も、地上にあるどんな強い光源の光も、太陽の光を上回ることはありません。とても強烈な光なので、昼間の太陽を直接見るのは危険です。十秒にも満たない短い時間でもだめです。ただし、夕日はエネルギーの弱い赤い光が主なので昼間より少し長く見ていられます。

太陽の表面の温度は六千度。原子核が想像もつかないほど強くくっつく核融合反応によって発光しています。もしも地球に来る太陽光のエネルギーを全部、電気に変えて使えらしたら、世界中で一年間使う量を一時間で作れてしまうほどです。

直径は地球の百九倍にもありますから、地球をビー玉としたら太陽は運動会の玉転がしの玉くらいあります。地球までの距離はピンと来ませんがおよそ一億後千万キロメートル。新幹線で行ったら軽く六十年以上かかりますね。

ぼかぼか暖かい日差しは、ものを乾かしたり、殺菌したり、季節を知ったりと、さまざまに利用されてきました。日差しが作る影も、時間や方角を知る上で重要でした。しみじみ、人類は太陽とともに進化してきたのだなあと思っています。

自在な発想

ふしぎをみつけて、な
んでそうなるかを自
分なりにお話してく
くれる子供がたくさ
んいます。子供なりの
考えは大人が思う以
上にきちんとした論
理に基づいています。

よく幼稚園児みた
いに適当なことを
：と大人のいい加
減な発言を揶揄す
るときに幼児を引
き合いに出します

が、とんでもない間違
いです。ただ、子供達
はその基盤となる知
識が大人に比べて限
られているので飛躍
しているとか、単純だ
とみられがちなので

るのを見つけた子が、
あちこちを見回し、手
をかざしたり、これは
と思うものを動かした
りして原因を見つけ出
す様子はいっぱしの科
学者。じっくり発想に
耳を傾けてみて下さい



はじめまして *

今回からふしぎしんぶんの
挿絵を担当させていただきます。
ことになりました たまたこです。

見て下さっている皆さんに
温かい何かが残ると幸いです。

これから よろしくお願ひします。
たまたこ

「たまたこ。」絵師兼イラストレーター
http://tamataro.blogspot.jp/

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方

絵本にはたくさんのお日様ぼかぼか場面を見ることが出来ます。「ガンピーさんのふなあそび」(ホルブ)ある日ガンピーさんが小さな川船に乗って出かけると、子供や動物が次々に乗せてとやってくる…絵の中でお日様の姿がだんだんクローズアップされると思ったら、なるほど、みんなであぬれた服を乾かすことになりました。「ガンピーさんのドライブ」(同)ドライブの最中の土砂降り。さあ大変、みんなで車を押さなくちゃ。最後にお日様が登場します。「はるかぜさんといっしょに」(こぐま)春風さんと一緒にどンドン、みんなどこ行くの?お日様のかわいらしい絵はどこにあるかな?「これはおひさま」(福音館)谷川俊太郎氏のユーモラスな詩。これはお日様の下

の…なんでしょう。「できておひさま」(同)スロバキア民話。表紙には真っ黒なお日様が。いったいどうしたのでしょうか。「くもりのちはれ・せんたくかあちゃん」(同)洗濯物は晴れてくれなきゃ。でも雨。ようし、雲の上ならお日様が見えるはず。「おさるとぼうしうり」(同)山のように帽子を重ねて頭に乘せた行商人。お日様の照る街を歩きます。木の下で一休みしたせいで大変なことに…。「はるかぜのホネホネさん」(同)祭りのお知らせ配達はホネホネさん。おひさまはどこかな?「おりこうなアニカ」(同)牧場にはお日様さん。壊れた柵から大事な牛が逃げないか見張るアニカ、でも牛が逃げたみたいそうです。助けてくれたのはなんと小人達。「ぞうくんのさんぼ」(同)ぞうさんの上に何匹も積み上がって危なっかしいこと。でも、みんなごきげん。なぜなら、いいお天気ですもの。

クイズ解答 1)。1と4と5。たんぽぽは太陽が当たると花を開くことができる。ハチは太陽光の紫外線によって蜜を探す花を見ている。猫は太陽光にあたり自力でビタミンD生成をする。2)。うそ。見た目は同じくらいだけど実際は違う。